

婚姻の秘跡

◆ 人生と結婚に関する創造主の計画

1☐. 「神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。そして海の魚、空の鳥、家畜、地の獣、地を這うものすべてを支配させよう。」神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。神は彼らを祝福して言われた。「産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ。海の魚、空の鳥、地の上を這う生き物をすべて支配せよ。」創 1,26-28

2☐. 「主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。」創 2:15

3☐. 「主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人のところへ連れて来られると、人は言った。「ついに、これこそ／わたしの骨の骨／わたしの肉の肉。これをこそ、女（イシヤ）と呼ぼう／まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。」（創世記 2,18-25）

「愛によって人間をお造りになられた神は人間を愛へとお招きになりましたが、これはすべての人間に内在する根本的な召し出しです。人間は「愛である」（1ヨハネ 4, 8-16 参照）神にかたどり、神に似せて造られたからです。神が人間を男と女とに造られたので、男女の相互愛は、人間を愛される神の絶対で不滅の愛を映し出すものとなります。この相互愛は創造主の目にはよいもの、きわめてよいものなのです。神によって祝福されたこの愛は、子供を産み、被造界を維持する共同の働きを行うことを目指しています。「神は彼らを祝福していわれた。『産めよ、増えよ、地に満ちて地を従わせよ』（創世記 1,28）」（カトリック教会のカテキズム 1604）

- ✧ 人間が最初から与えられた仕事は、世界を完成させるための協力の象徴です。神は人間から創造の業の完成のための協力を求めています。
 - ✧ 人間が神によって創造されたのは、神の命に参与し、神ご自身の幸福にあずかるためなのです。
 - ✧ 神は愛ですので、以上の目的に達するためには、人間は愛に生き、愛によって神と結ばれる必要があります。
 - ✧ 愛する能力は、人間の最も優れた能力であって、人間の本質なものですので、人間は愛に生きる時だけ、人間らしく生きています。
 - ✧ 結婚は、完全な愛（結果的に神との一致と永遠の幸福）への一般的な道です。
 - ✧ 神が定めた結婚には、二つの主な目的があります。
 - 第一の目的とは、生命を伝えることです。
 - 第二の目的とは、互いに愛し合うことによって絆を深め、生まれる子どもに愛を与えることです。
- 4☐. 「イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、モーセは妻を離縁することを許したのであって、初めからそうだったわけではない。」マタ 19,8

◆ 原罪の結婚への影響

5☐. 「神は女に向かって言われた。「お前のはらみの苦しみを大きなものにする。お前は、苦しんで子を産む。お前は男を求め／彼はお前を支配する。」創 3:16

「人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりはしなかった。」創 2:25

「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はいちじくの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした。」創 3:7

- ✧ 原罪の結果として人間は、自分自身と他人の価値（尊厳）を知らないようになり、互いに愛し合い、協力する代わりに、争ったり、利用したりするようになりました。

「すべての人は自分の周囲や自分のうちに悪を体験します。この体験は また、男と女との間でも見られます。男女の結合はつねに、不和、支配欲、不忠実、しつと、憎悪や断絶に終わる衝突などの危険にさらされています。この無秩序は、大きさには多少の相違が見られたり、それぞれの文化、時代、個人などの努力による多少の解決がなされたりしているとはいえ、いつどこでも起こっている問題です。」(カトリック教会のカテキズム 1606)

「わたしたちが経験し、苦しんでいるこの無秩序は、キリスト教信仰によれば、男と女の本性や、両者の関係に由来するのではなく、罪の結果なのです。神との断絶をもたらした人祖の最初の罪の結果は、男と女との原初の交わりを破壊しました。男女の関係は相互の責任のなすり合いでゆがめられ、本来は創造主のたまものである相互間のあこがれは支配と欲望の関係へと変わってしまいました。産み、増え、地を従わせる男女の優れた召し出しは、産みの苦しみと糧を得る労苦を背負うものになりました。」(カトリック教会のカテキズム 1607)

◆ 利己心・結婚問題の最も基本的な原因

6☐. 「あなたがたも聞いているとおりに、『姦淫するな』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。みだらな思いで他人の妻を見る者はだれでも、既に心の中でその女を犯したのである。」マタ 5:27-28

☆ 「みだらな思いで」他人を見ることは、この人を愛すべき人間として見るのではなく、自分の満足のために利用することのできそうな「もの」として見ることなのです。

☆ イエスの模範と教えによれば、愛するとは、相手を高めるため(相手の真の善のため)に全力を尽くし奉仕する(善を行う)ことですので、愛の正反対とは、憎しみというよりも、無関心、または、(自分の利益を求めて相手を)利用することです。

7☐. 「それから、イエスは皆に言われた。「わたしについて来たい者は、自分を捨て、日々、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は、それを失うが、わたしのために命を失う者は、それを救うのである。人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の身を滅ぼしたり、失ったりしては、何の得があるうか。」ルカ 9:23-25

8☐. 「人がその友のために自分の命を捨てること、これよりも大きな愛はない。」ヨハ 15:13

☆ 自己中心(何・誰よりも自分の命を大切にすること)から解放された人だけが、神の心に適う結婚生活(人生)、消えることのない喜びに満たされた結婚生活(人生)を生きることができます。

◆ 救いの計画(人間に対する神の望み)を表す結婚

9☐. “Israel, I will make you my wife; / I will be true and faithful; / I will show you constant love and mercy /and make you mine forever.” Ho 2:19

10☐. 「わたしは、あなたととこしえの契りを結ぶ。わたしは、あなたと契りを結び／正義と公平を与え、慈しみ憐れむ。わたしはあなたとまことの契りを結ぶ。あなたは主を知るようになる。」ホ 2:21-22

「聖書は神に似せて造られた男と女の創造の話で始まり、「小羊の婚宴」(黙示録 19・9)の話で終わります。そして、聖書の初めから終わりまで、結婚とその神秘、その制定と神がその結婚に与えられた意義、その起源と目的、救いの歴史の流れの中で成就されていくその多様な姿、罪ゆえに生じたその困難さ、キリストと教会との新しい契約の中で「主に結ばれている」(1コリ 7-39)者との再婚などについて語っています。」(カトリック教会のカテキズム 1602)

◆ イエス・キリストの最初のしるし(カナでの婚礼で水をぶどう酒に変えた)

☐ 「三日目に、ガリラヤのカナで婚礼があつて、イエスの母がそこにいた。イエスも、その弟子たちも婚礼に招かれた。ぶどう酒が足りなくなったので、母がイエスに、「ぶどう酒がなくなりました」と言った。イエスは母に言われた。「婦人よ、わたしとどんなかわりがあるのです。わたしの時はまだ来ていません。」しかし、母は召し使いたちに、「この人が何か言いつけたら、そのとおりにしてください」と言った。そこには、ユダヤ人が清めに用いる石の水がめが六つ置いてあつた。いずれも二ないし三メートル入りのものである。イエスが、「水がめに水をいっぱい入れなさい」と言われると、召し使いたちは、かめの縁まで水を満たした。イエスは、「さあ、それをくんで宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われた。召し使いたちは運んで行った。世話役はぶどう酒に変わった水の味見をした。このぶどう酒がどこから来たのか、水をくんだ召し使いたちは知っていたが、世話役は知らなかったので、花婿を呼んで、言った。「だれでも初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわったころに劣ったものを出すものですが、あなたは良いぶどう酒を今まで取って置かれました。」」ヨハ 2:1-10

- ◇ 「ぶどう酒が足りなくなった」ことは、愛の不足（人間が自分の力だけでは愛に生きることができないこと）を表している。
- ◇ 新しい「良いぶどう酒」は、神の愛を表している。
- ◇ イエスは、溢れるほど、良いぶどう酒を与えることによって、人間の罪によって不可能になった神と人間の愛の交わりを回復させ、完成に導くことがご自分の使命であることを示してくださいました。

「こうして創造の秩序は甚だしく乱されたとはいえ、存在し続けています。男と女は罪による損傷をいやすために恵みの助けを必要とし、神はその限りない慈悲により、決してこれを拒むことはありませんでした。神のこの助けなしには、男と女は神が創造によって定められた「初めから」の目的に沿って自分たちの結合を果たすことはできません。」(カトリック教会のカテキズム 1608)

「結婚のきずなの不解消性に関するイエスの断定的な強調は人々を困惑させ、実行不可能な要求と受け取られる可能性があります。しかし、イエスは夫婦に担うことのできない重荷、モーセの律法よりも重い荷を負わせられたものではありません。イエスは罪によって乱された創造の原初の秩序を回復するために来られ、神の国の新しい展望の中で結婚生活を生きるための力と恵みを自らお与えになります。夫婦はキリストの後に従い、自分を捨て、自分の十字架を背負ってこそ、はじめて結婚の本来の意味を「受け入れ」、キリストに助けられながらその教えに基づいて生活することができるのです。キリスト者の結婚の恵みは、すべてのキリスト教的生活の源であるキリストの十字架の実りなのです。」(カトリック教会のカテキズム 1615)

- ◇ 原罪による心の損傷のため、愛することは難しいですが、神の助けのおかげで、不可能ではありません。
- ◇ キリストがこの世に来られたのは、すべての人々の心の傷をいやし、愛する力を与えるためなのです。
- ◇ キリストに心を開いて、「キリストの杯から新しいぶどう酒を飲む」ならば、創造主の最初の計画に合う結婚生活、従って大きな喜びに満たされた結婚生活を送ることができます。

◆ 利己心からの解放によって生まれる愛（奉仕）

- 📖 「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。」エフェ 5:21
- 📖 「また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。」エフェ 5:24-25
- 📖 「人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのと同じように。」マタ 20:28

- ◇ 「畏れる」というのは、敬うことです。

◆ 秘跡としての結婚

- 📖 「『それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。』この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです。」エフェ 5:31-32

「男女が相互に全生涯にわたる生活共同体を作るために行う婚姻の誓約は、その本性上、夫婦の善益と子の出産および教育に向けられています。受洗者間の婚姻の誓約は、主キリストによって秘跡の尊厳にまで高められました。」(カトリック教会のカテキズム 1601・新教会法第 1055 条第 1 項)

「御父の右に座し」、教会であるご自分のからだに聖霊を注がれた今、キリストは恵みを分かち与えるために制定された諸秘跡を通して行動されます。秘跡とは、人間であるわたしたちの力でもとらえられる感覚的なしるし(ことばと行い)であり、キリストの働きと聖霊の力とによって、しるしが表す恵みを効果的に与えるものです。」(カトリック教会のカテキズム 1084)

「キリスト教的な生活全体に、キリストと教会との夫婦愛のしるしが刻まれています。神の民の一員とする洗礼は、すでに結婚の神秘です。すなわち、洗礼は結婚式の前の水の洗いであり、その後にエウカリスチアという婚宴が続きます。キリスト者の結婚はキリストと教会との契約の秘跡、その効果的なしるしなのです。受洗者同士の結婚は、新約の恵みを示し、与えるので、新約の真の秘跡です。」(カトリック教会のカテキズム 1617)

「結婚の誓約の当事者は、洗礼を受けた一人の男性と一人の女性で、自由に結婚することができ、自由意志をもって同意を表す者たちです。「自由に結婚することができる」とは次のことを意味します。強制されていないこと。自然法、あるいは教会法上の結婚の障害がないこと。」（カトリック教会のカテキズム 1625）

「教会は新郎新婦間の同意の交換を、「結婚を成立させる」不可欠な要素とみなしています。同意がなければ結婚は成立しません。」カトリック教会のカテキズム 1626)

「同意とは、「配偶者が互いに自分を与えそして受ける人間行為」のうちに成立するものであり、それは、「わたしはあなたを妻とします」「わたしはあなたを夫とします」ということばで表されます。新郎新婦を互いに結び合わせるこの同意は、二人が「一体」となることで完成します。」（カトリック教会のカテキズム 1627）

「同意は、暴力または外部からの強度の恐怖によって束縛されていない当人各自の意志行為でなければなりません。いかなる人間の権力も、この同意に取って代わることはできません。もしもこの同意が自由意志で行われたものでないとすれば、結婚は無効です。」（カトリック教会のカテキズム 1628）

意志の確認

司祭 「〇〇さんと〇〇さん、お二人は自らすすんで、この結婚を望んでいますか。」

新郎新婦 「はい、望んでいます。」

司祭 「結婚生活を送るに当たり、互いに愛し合い、尊敬し合う決意をもっていませんか。」

新郎新婦 「はい、もっています。」

司祭 「お二人の家庭に恵まれる子どもを神からの恵みとして心から受け入れ、キリストとその教会の教えに従って育てますか。」

新郎新婦 「はい、育てます。」

結婚の誓約

司祭 「それでは、神と私たち一同の前で結婚の誓約をかわしてください。」

司祭 「〇〇さん、あなたは〇〇さんを妻としますか。」

新郎 「はい、いたします。」

司祭 「〇〇さん、あなたは〇〇さんを夫としますか。」

新婦 「はい、いたします。」

司祭 「それでは、一緒に誓いを立ててください。」

新郎新婦 「私たちは夫婦として、順境にあっても、逆境にあっても、病気のときも健康のときも、生涯、互いに愛と忠実を尽くすことを誓います。」

司祭 「私は、お二人の結婚が成立したことを宣言します。お二人が今、私たち一同の前でかわされた誓約を神は固めてくださり、祝福で満たしてくださるように。」

✧ 結婚する男女は、神が私たちが愛しているように（自由に、無条件に、不動に、忠実に、命に開かれて）愛し合うことを誓い、互いに奉獻し合います。

✧ 夫婦の体の交わりが、以上の誓い（奉獻）を表すものとして、結婚誓約の更新となっています。

カトリック新教会法：

第 1057 条 (1) 婚姻は、法律上能力を有する者の間で適法に表示された当事者の合意によって成立する。この合意はいかなる人間の力によっても代替され得ない。

(2) 婚姻の合意は、婚姻を実現するために、男女が取り消すことのできない誓約によって相互に自らを授受し合う意思行為である。

第 1061 条 (1) 受洗者間の有効な婚姻がいまだ夫婦行為によって完成されていない場合には認証婚と呼ばれる。また、夫婦が人間にふさわしい方法で夫婦行為を行った場合、すなわち婚姻がその本性上目的としている、子の出生にとって適切、かつ夫婦が一体となるための行為を行った場合には、完成の認証婚と呼ばれる。

第 1141 条 完成の認証婚は、死亡の場合を除いて人間のいかなる権力によっても、またいかなる理由によっても、解消され得ない。